

都市問題

後藤・安田記念東京都市研究所
2016年2月1日(毎月1日発行) ISSN 0387-3382

vol.107
February
2016



働く女子の運命 濱口桂一郎 [著]

文藝春秋/新書/251頁
定価:780円+税
ISBN 978-4-16-661062-4



法制度は欧米に比べて遜色ないほど充実しているにもかかわらず、日本の女性はなぜ「活躍」できないのか。日本型雇用の形成、確立、変容の歴史をたどり、この問題の本質を明らかにする。

著者は、欧米社会が労働をジョブごとに切り出して技能のある労働者をはめ込む「ジョブ型」であるのに対して、企業に属し長年勤務することでスキルを身につける日本社会を「メンバーシップ型」と呼ぶ。そして、この雇用システムの違いを日本の男女平等政策が実を結ばない最大要因に挙げる。戦後、日本では年功による賃金制が用いられ、女性には結婚退職制や若年定年制を適用して男女で異なる人事管理を行うことが当然視されてきた。年功賃金制の源流は戦時体制下にあるとしてその歴史をたどるとともに、高度経済成長期における日本的経営賛美論とそれを担保するロジックを解説する。

さらに、現在も続く日本型雇用の下、片面的なワークライフバランス法制によってジレンマを抱えることになった女性たちの肉声を交えながら、「働きづらさ」の真相を解き明かしていく。

■巻頭言——西川 正 / 「たき火」ができるまち、
[認定NPO法人ハンズオン埼玉常務理事]

■インタビュー——石川えり / 日本で暮らす難民と
[認定NPO法人難民支援協会代表理事]

●特集2——自治体職員の成長
稲継裕昭 / 田尾雅夫 / 田中孝男 / 大杉